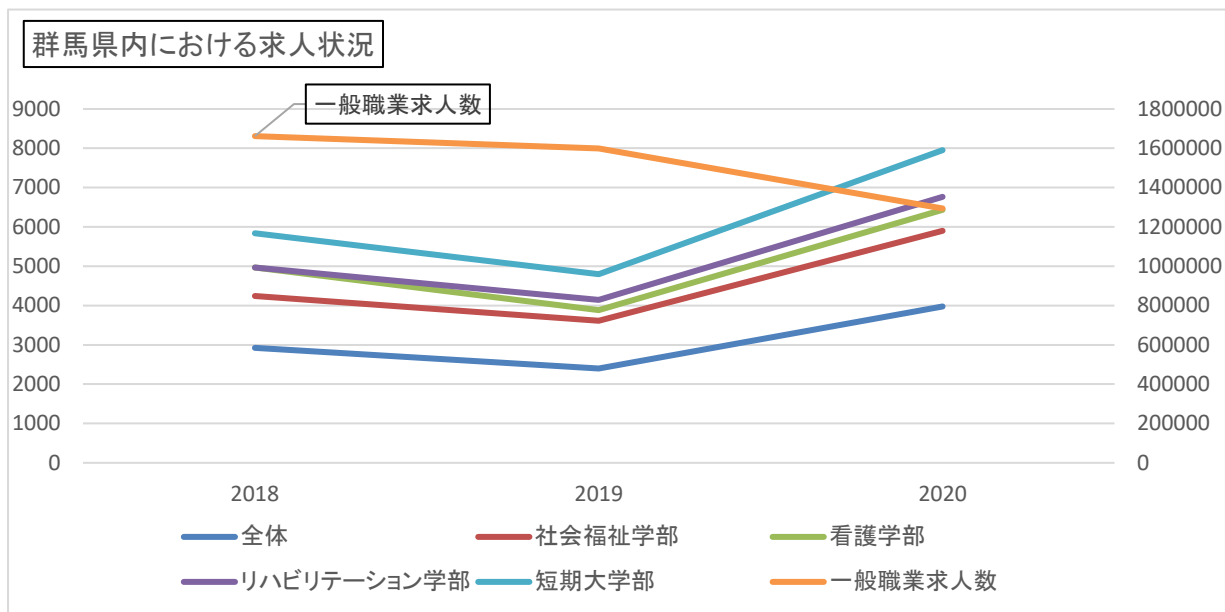


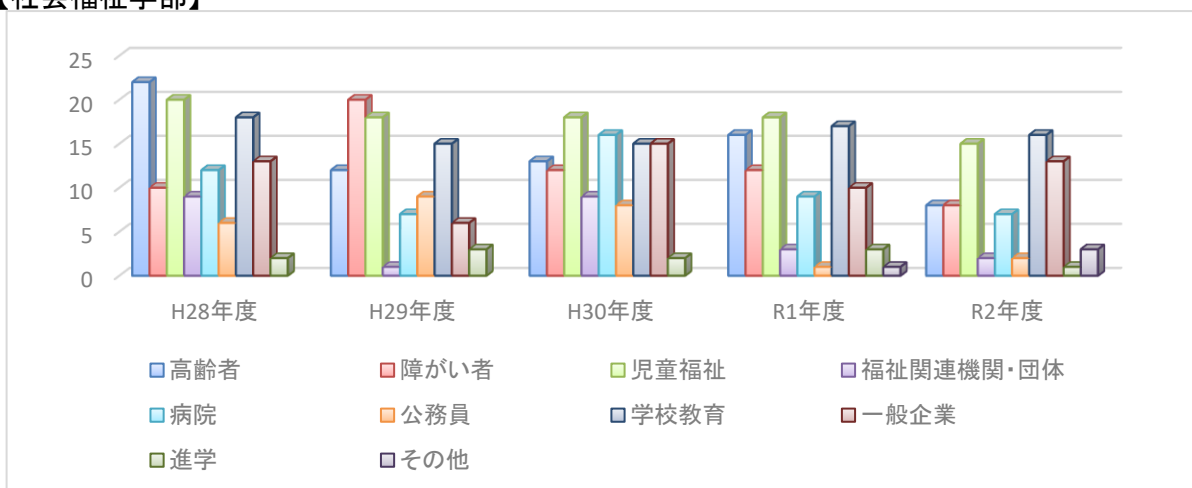
群馬医療福祉大学進路状況推移

厚生労働省と文部科学省では令和元年度大学等卒業予定者の就職内定状況を共同で調査し、令和3年2月1日現在の状況がとりまとめられ、大学の就職内定率は89.5%（前年同期比2.8ポイント低下）となり、また、短期大学の就職内定率は、82.7%（前年同期比6.6ポイント低下）であった、新型コロナウイルス感染拡大の影響で旅行・飲食関連企業が大幅に採用を抑制しており、低下幅はリーマン・ショック後の09年調査（7.4ポイント）以来11年ぶりの低下幅の大きさとなった。近年は上昇傾向が続いていたが、新型コロナウイルスの影響を受けた業界を中心とした採用意欲の低下などが背景にあるとみられ、医療福祉業界においても少なからず影響を受ける中、本学に寄せられる求人数は群馬県内の求人を取ってみても上昇傾向にある。

令和3年度からは4学部1学科となり、各学部の状況を把握するとともに、変わりゆく社会状況にあわせ、質の高い人材を育成し、社会に輩出するため比較を行った。



【社会福祉学部】



社会福祉学部は他学部 비해、進路先が広範囲に分かれている。

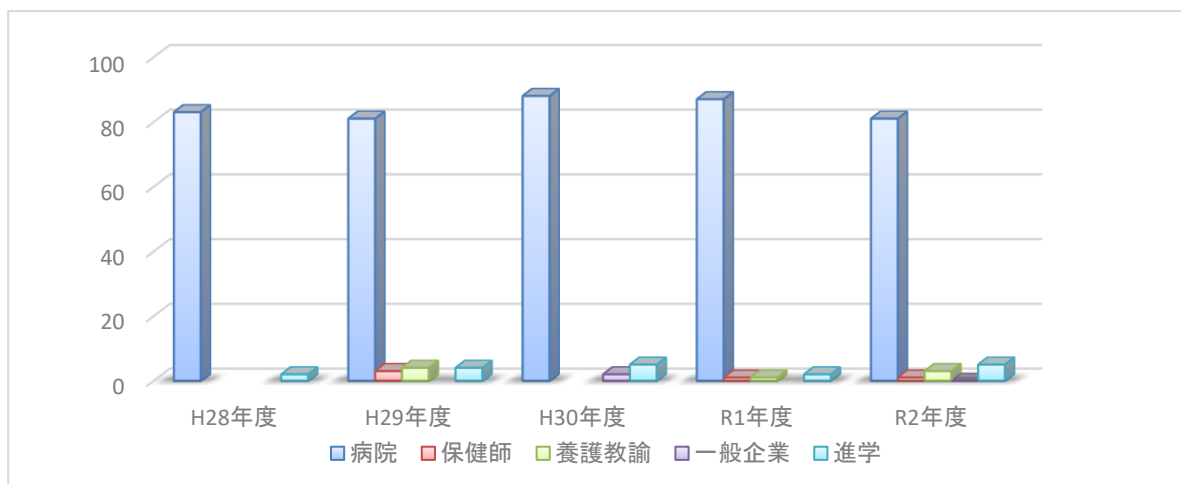
例年公務員志向が強いため、公務員等対策委員会と協力し、継続的な検討が必要となる。

短期大学部から編入生が多く在籍している年度は比較的介護現場での就労意識が高い。

今後は、社会福祉士及び精神保健福祉士養成課程のカリキュラム変更に伴い実習時間が60時間(2週間)と、大幅に伸びるため、心理コース・教育コース・子ども専攻に在籍し社会福祉士受験予定者の実習実施時期によっては就職活動等に大きく影響が出るように思われる。

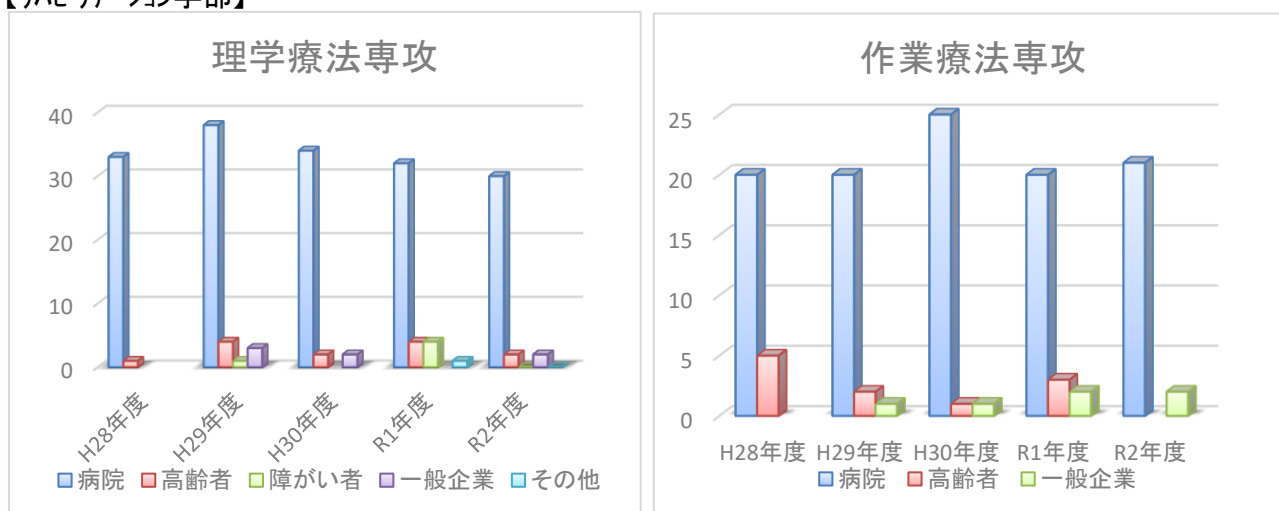
また、本学の特徴でもあるボランティア活動が進路決定の貴重な機会となっている。

【看護学部】



看護学部は他学部とは違い、求人募集や就職活動の動きが早く、5月末時点での内定率と現在の内定率では10%程度しか変わらない。また、求人数は年々増加傾向にあり、奨学金制度を充実することで、看護学部入学時に就職先が決定しているというような病院も増えている現状にある。また、令和2年度は例年と比べ助産師の専攻科(別科)へ進学するものが多く出た。

【リハビリテーション学部】



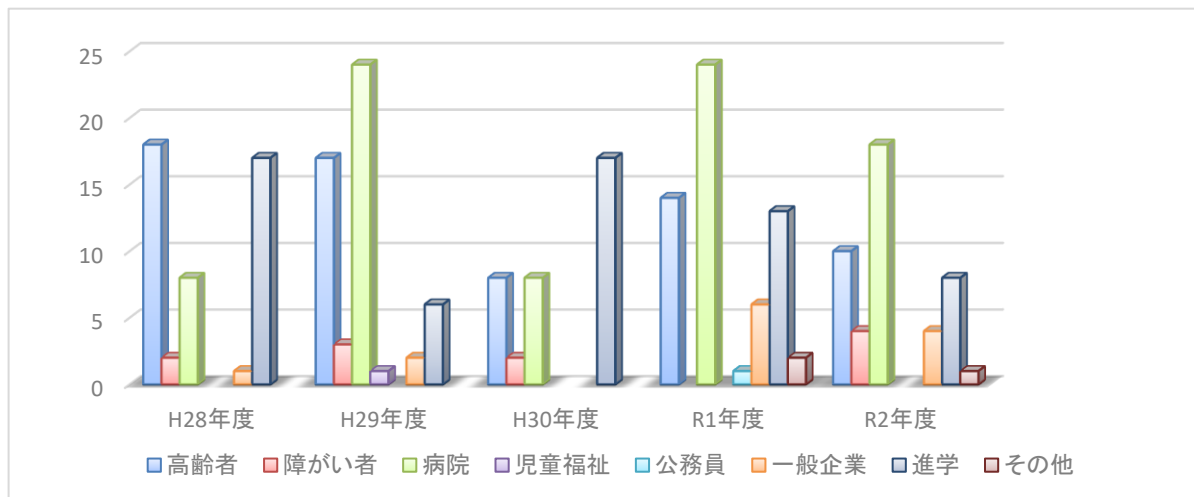
作業療法士が働く場所は、病院・施設と様々で、地域包括ケアシステムにおける在宅支援においても専門性を十分に発揮するための就職先が選ばれている。

理学療法士は全国的に供給過多の傾向があり、本学の学生は就職先を群馬県外まで広げなければならないのも現実である。

また、国が地域共生社会の実現という方針を示しており、理学療法士・作業療法士が活動する領域は、現在の病院・施設が中心で、徐々に地域活動に根ざした職へ変遷していくことが予想される。

養成校の統廃合による定員数減少の可能性があること、理学療法士・作業療法士の職域の変化などのから、全国で就職率が低下する可能性があることも考えられる。

【短期大学部医療福祉学科】



短期大学部医療福祉学科の中には介護福祉コース及び医療事務秘書コースがある。介護福祉コースは高齢者施設へ、医療事務秘書コースは病院等の医療事務として勤務している。また、本学社会福祉学部3年次、短期大学部内の専攻科(診療情報管理教育)へ編入学や進学するものが例年出ている。

短期大学部(介護)向けの求人は伸び続け、介護人材の就職に関しては好調である。

医療秘書・事務コースでは、総合病院の医療事務求人に加え歯科医院の受付事務兼歯科助手求人が増加している現状であり、さらにはドラッグストア等へ「登録販売者」の資格を活かした職に就いたものもみられた。